



□欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)ハードストック裾野	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0	/5	ふつつ			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.6	/5	がんばろう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4	/5	ふつつ			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.2	/5	がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点	3.0
<p>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</p> <p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④外装補修必要間隔25年 ④内装補修必要間隔18年</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 11、自動水栓を使用。無駄な流水を少なくし、節水効果を図る。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 15、建物配置の工夫</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
	<p>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</p> <p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 17、非常発電機設備の設置</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
	<p>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</p> <p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 階高4.6m</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 見通しの良いフェンスの設置</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
	<p>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) 植栽による良好な景観</p> <p>■敷地外環境対策 (㉔温熱環境悪化の改善) LR1エネルギーのスコア3.0以上4.0未満</p>	Q-3 1 ⑳ 2 ㉒ 3 3.2 ⑳ LR-3 2 2.2 ㉔	⑳ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ⑳ 敷地内温熱環境の向上 ㉔ 温熱環境悪化の改善

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ハードストック裾野	階数	地上1F
建設地	裾野市水窪字横田25-1 他9筆	構造	木造
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	125 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2020年2月1日
敷地面積	4,748 m ²	作成者	吉永
建築面積	2,041 m ²	確認日	
延床面積	2,162 m ²	確認者	吉永



シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 84%
③上記+②以外の 84%
④上記+ 84%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

音環境	2.6
温熱環境	2.6
光・視環境	3.0
空気質環境	3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

機能性	2.9
耐用性	2.8
対応性	3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.6

生物環境	1.0
まちなみ	4.0
地域性	2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.9

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	2.9
効率的	2.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

水資源	3.0
非再生材料の	2.4
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

地球温暖化	3.6
地域環境	2.5
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	CASBEE静岡2016年度版による評価結果	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
科学汚染物質: 内装材はF☆☆☆☆を使用	広さ感景観: 売場天井高=4.6m	敷地周囲に植栽帯を設けます。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明、省エネ型の空調機器を使用します。	自動水栓を使用、無駄な流水を少なくし、節水効果を図る。	緑地を確保し、地表面温度等の上昇を抑制するよう二配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される